

済生会ニュース

第31号

平成17年3月1日発行 三重県松阪市朝日町一区15番地の6 電話 0598-51-2626代／ fax 0598-51-6557
<http://www2.dango.ne.jp/saisei-m>

院外版

ART・生殖医療センター新設のご案内

産婦人科 部長 菅 谷 健



当院産婦人科は平成7年に不妊外来を開設して以来、不妊治療に力を入れてきました。平成8年2月より体外受精を開始し、今年で10年目を迎えます。現在では国内で認められているすべての最先端生殖医療を当院で受けていただくことができます。また国の少子化対策の一環として、昨年より三重県特定不妊治療費助成事業が開始されましたが、当院は特定不妊治療指定医療機関に認定され、体外受精・顕微授精にかかる費用の助成が受けられるようになりました。

不妊治療専門施設として常に最新の治療を提供できる様スタッフ一同努力してきましたが、その診療環境は決して満足できるものではありませんでした。これまでの不妊外来は産科・婦人科を受診される方と同じ産婦人科外来で行われていました。「妊娠さんの姿を見るのがつらい」、「診察室の会話が待合いに聞こえるのではないか」こんな意見が不妊治療をされている方からよく聞かれました。そのようなストレスが妊娠の妨げになり、通院治療が逆効果になるケースも多々あり



命のはじまり（受精2日目）

ました。もう少し快適な環境で治療を受けていただければと常々思っておりましたが、やっと念願がかない本年5月にART（Assisted Reproductive Technologyの略）・生殖医療センターが新診療棟4階にリニューアルオープンします。このART・生殖医療センターは産婦人科から完全に独立し、不妊治療専用のフロアとなります。専用エレベーター、プライバシーに配慮したラウンジ、カウンセリング室、夫婦で来院された方用の個室、1子不妊の方のための子供部屋、男性待合室等を備えております。また1フロアに外来診療・人工授精・採卵・顕微授精・受精卵凍結保存・胚移植等に必要なすべての最新設備が整っております。また対外受精も日帰りで受けることができます。また不妊によって生じるさまざまな悩み・不安・ストレスに対するこころのケアの充実をはかるため、不妊認定看護師、不妊カウンセラーによるカウンセリング外来が新しくはじめります。医師には相談しづらい悩み・不安等に対し可能な限りサポートさせていただきます。また気軽に利用できるインターネットによるメール相談も予定しております。

不妊症といっても一人一人原因もおかれている立場も異なります。十分にお話を聞かせていただき、その方に合った治療を納得して受けていただく必要があります。そのため初診時には1時間程の時間をとり医師と面談していただきます。また治療の過程でも必要に応じて時間をとり、治療法について十分相談させていただきます。不妊治療はご夫婦の理解と協力が必要ですので初診時はご夫婦での来院をおすすめします。

待ち時間を少なくスムーズに診療をすすめるため、不妊外来は完全予約制となっております。初診でも、電話予約が可能ですので予め電話予約の上、来院下さいますようお願い申し上げます。

ART・生殖医療センター

予約専用電話（平日/14:00~17:00）

0598-52-6025

医事課

課長 出口 功一郎

医事課といふとどんなことをするのと思われる方も多いと思います。読んで字のごとく、医療に関する事務を担当するところで、次のような係りがあります。

1. 受付（初診、再診）

外来患者様の受付をし、カルテ（基本カード、青い袋）をお渡しする所です。また、外来患者様のカルテを保管しています。

2. 入退院窓口

退院される患者様・現在入院中の患者様の会計窓口です。また、入院案内もこの窓口でさせて頂いております。

3. 外来会計

外来患者様の会計窓口です。

4. 病棟事務

入院中及び退院される患者様の医療費を計算している所です。退院や定期請求の際お部屋へ伺っております。

5. 交通事故関係

交通事故のおもに治療費の相談をさせて頂いております。

6. 医事統計

各種の統計を算出している所です。

7. 診療情報管理室

入院患者様のカルテ・レントゲンのフィルム等を保管し、必要に応じて入出庫しています。



8. 医療連携室

地域の開業医や病院間の連携・情報の交換を行っています。

9. 医療相談室

主に医療費の相談、退院・転院の相談等をさせて頂いております。

10. 健診

各種の健康診断、企業健診等を担当しています。

受付関係では日本医療の方が中心となって、放射線科、生理検査室、理学療法室、薬剤部、人工透析室、歯科・口腔外科等で患者様への対応を行っています。

医事課（受付）は、患者様がだれよりも先に接する所で病院の顔とも言われています。私たち医事課職員は、患者様が満足されるサービスをモットーに日々努力しております。受付や会計の待ち時間を少しでも短縮できるように工夫をして患者様と接するときは笑顔ではっきりとした言葉遣いで対応することを心がけています。

総合案内の看護師さんやボランティアの方々に助けられながら毎日頑張っています。お気づきのことがありましたら遠慮なさらずに何なりと声をかけていただきますようお願いいたします。

おくすり通信

済生会松阪総合病院 薬剤部



「お薬手帳」の活用について

皆さん、「お薬手帳」をお持ちでしょうか？

「おくすり手帳」は、患者様による医薬品情報の一元管理、および医療機関と保健薬局の相互連携による医薬品適正使用の推進を目的としています。

お薬手帳は、あなたに処方されたお薬の名前や飲む量、回数、飲み方、注意することなどを記録するための手帳です。この記録がありますと、医師、歯科医師や薬剤師が、どのようなお薬をどのくらいの期間使っているかなどが判断できます。そして薬の重複などを避けることが出来て、安全で効果的な薬物療法ができます。

この手帳をお持ちでない方はお薬を受け取る時にかかりつけ薬局へ申し出て下さい。

診療時にはこのお薬手帳を忘れず持参し、処方医師に提示してください。

* お薬手帳に関してはかかりつけの保険薬局までお問合せ下さい。



これ以外にも何種類かの手帳があります

疼痛緩和ケアチームについて

麻酔科 部長 清水美恵

英語で病院をホスピタルといいます。この語源は、ホテルと同じラテン語のホスピターレで、巡礼などをもてなす宿泊所のことで、身体や心をいやす場所といった意味を持っています。

病院には、様々な病に苦しむ人が集まっています。その苦しみの中には、耐えがたい痛みを伴うこともあります。こうした痛みを少しでも和らげることができればと考えて、私たち緩和ケアチームは誕生しました。

痛みは、身体だけでなく心の自由をも奪ってしまいます。ですから病気そのものの治療と平行して、痛みに対する治療が必要になるのです。

痛みを和らげるいろいろな薬物療法があります。薬の副作用にも対処する方法があります。病気に伴う症状を抑えたり、食事や睡眠がとれるように考えていきます。緩和ケアチームでは看護師を中心に、医師、薬剤師などがそれぞれの専門分野の知識を生かして治療にあたることになります。

治療はつらいし入院生活も不自由、けれどあなたの人生は続いています。その時間をできるだけあなたらしく過ごしていただくために私たちができるることをみんなで考えていきましょう。そして、力を合わせて歩いて行きましょう。それが緩和ケアチーム全員の願いです。

まだ活動は始まったばかり。これから徐々に輪を広げていき、伸ばしていただいた手をしっかりと握り返せるようがんばっていきたいと思います。



スギ花粉症の薬物治療について

耳鼻咽喉科 部長 藤田健一郎

今年もスギ花粉症の患者様にとって憂鬱な季節がやってきました。とりわけ今年は昨夏が猛暑だったこともあり、スギ雄花の発育が良好で、爆発的な花粉の飛散が予測されています。今回は花粉症の時期を少しでも快適に過ごすための薬物治療についてお話しします。

三重県下のスギ花粉は例年1月初旬から飛散し始め(初観測日)、2月10日から2月20日頃にかけてまとまつた数のスギ花粉が飛散します(花粉飛散開始日)。およそこの頃になると患者様の約30%は鼻汁、鼻閉、くしゃみ、眼の痒みなどの症状が出現します。そして一度症状が強く出て重症化してしまうと、薬を飲んでも何をしても症状を抑えられず不快な症状が持続してしまいます。しかし、ここ数年前から花粉飛散開始日前から

薬を飲めば、症状を軽症化できることが分かってきました。これを「予防的治療」または「初期治療」と言います。薬はケミカルメディエーター

遊離抑制薬や受容体拮抗薬(第二世代抗ヒスタミン薬)といった内服薬を用います。

症状の軽い人は初期治療を継続するだけで、花粉症の時期を乗り切ますが、多くの患者様は花粉飛散量の増加と共に症状が悪化します。その際は、ステロイド点鼻薬や経口ステロイド薬を追加したり、初期治療の薬を変更したりして症状を鎮めます。これを「導入療法」といいます。こうして症状が落ち着いたら、いずれかの薬を減らして「維持治療」に入り、花粉飛散が終焉するまで継続します。

以上は「鼻アレルギー診療ガイドライン」にのっとった標準的な治療法です。しかし当たり前の事ですが、症状の強さや鼻粘膜の過敏性には個人差がありますし、処方する薬剤もその効果や副作用の出現においては、実際に使ってみなければ分からぬ事もあります。最近の薬は眠気、口渴、倦怠感などといった副作用は比較的稀です。どうしても副作用ができる人には漢方薬が良いこともあります。またステロイド点鼻薬は副作用の心配はありませんが、経口ステロイド薬は副作用の出現を考慮して症状がつらいときにだけ頓用で用います。例年、この季節に鼻や眼の症状ができる人は花粉症かもしれません。早めに耳鼻咽喉科を受診して頂き、初期治療を受けることをお勧めします。



New Face

よろしくお願いします!

新任Dr.紹介



脳神経外科
清水重利



内科
田中淳子



整形外科
宮崎晋一

■ 外来診療担当表

(2005年2月1日)

★担当医は変更になることもあります。

- 受付時間 8:00~12:00 (診療科と曜日によって多少変更あります)
- 診察時間 午前9:00~12:00 / 午後1:30~
- 休診日 土・日曜日、祝祭日、年末年始(12/30~1/3)、創立記念日(5/30)

| | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----------------------|--------|----------|------------------------|-------|--------|----------|
| 内 科 | 一診 再診 | 大学医師(午前) | 胸部外科学院医師(午前) 濱口(午後) | 濱口 | 福家(午前) | 山口 |
| | 二診 新患 | 須川 | 内科医師 | 山口 | 内科医師 | 南川 |
| | 三診 再診 | 清水敦 | 上村 | 垂見 | 濱口 | 中島 |
| | 四診 再診 | 山口 | 南川 | 林弘 | 南川 | 林弘 |
| | 五診 再診 | 橋本 | 脇田 | 上村 | 脇田 | 田中淳 |
| | 六診 再診 | 林弘 | 橋本 | 青木 | 橋本 | 上村 |
| | 七診 | 中島 | 清水敦 | 中島 | 清水敦 | 脇田 |
| | 八診 | 青木(午前) | 垂見 | 田中淳 | 須川 | 青木 |
| 外 科 | 一診 | 院長 | 長沼 | 長沼 | 院長 | 田中穣 |
| | 二診 | 田中穣 | 北川 | 加藤宏 | 久米 | 北川 |
| | 午後 | | 外科医師(肛門) | | | 外科医師(乳腺) |
| 脳 神 經 外 科 | 一診 | 諸岡 | 諸岡 | 諸岡 | | 諸岡 |
| | 二診 | 中村 | 清水重 | 中村 | 清水重 | 佐野 |
| 整形外科 | 一診 | 今原 | 整形外科医師 | 今原 | 整形外科医師 | 今原 |
| | 二診 | 田中雅 | 森本 | 森本 | 田中雅 | 森本 |
| | 三診 | 宮崎 | 田中雅 | 吉田 | 宮崎 | 吉田 |
| 産婦人科 | 一診(午前) | 高倉 | 野田 | 高倉 | 菅谷 | 竹内 |
| | 二診(午前) | 竹内 | 高倉 | 野田 | 野田 | 高倉 |
| | 三診(午前) | 菅谷 | 菅谷 | 菅谷 | 竹内 | 菅谷 |
| | 一診(午後) | | | 高倉 | | |
| | 二診(午後) | 竹内 | 手術 | 竹内 | 手術 | 手術 |
| | 三診(午後) | 菅谷 | | 菅谷 | | |
| 小 兒 科 | 老谷 | 老谷 | 老谷 | 老谷 | 老谷 | 老谷 |
| 眼 科 | 一診 | 宮村昌 | 交代 | 宮村昌 | 宮村昌 | 宮村昌 |
| | 二診 | 江崎 | | 江崎 | 江崎 | 江崎 |
| | 三診 | 松浦 | | 松浦 | 松浦 | |
| 皮 膚 科 | 村上 | 村上 | 村上 | 皮膚科医師 | 村上 | 村上 |
| 耳鼻咽喉科 | 新患 | 坂井田 | 藤田 | 坂井田 | 藤田 | 坂井田 |
| | 再診 | 藤田 | 坂井田 | 藤田 | 坂井田 | 藤田 |
| 泌尿器科 | 一診 | 森 | 西川 | 森 | 柳川 | 西川 |
| | 二診(新患) | 木瀬 | 柳川 | 西川 | 木瀬 | 柳川 |
| 神経内科 | 一診 | 坂井 | 林穀 | 坂井 | 林穀 | 坂井 |
| | 二診 | 初診医 | | | | 初診医 |
| 麻 醉 科 | 宮村と | 清水美 | 宮村と | 清水美 | 宮村と | |
| 放 射 線 科 | 寺田 | 大学医師 | 加藤幹 | 中川 | 大学医師 | |
| 口腔 外 科 | 岡本 | 岡本 | 岡本 | 岡本 | 岡本 | 岡本 |
| | 廣谷 | 廣谷 | 廣谷 | 廣谷 | 廣谷 | 廣谷 |